

# 平成20年度胃がん（直接施設・集団）検診成績

小林医院 小林 晋 一

平成20年度の新潟市胃がん検診（施設・集団）の結果を報告する。

## 1. 胃がん検診の総受診者数・カバー率の推移（表1）

カバー率は内視鏡検診が加えられた15年度から上昇し、その後、微増傾向がつづき今年度は23.0%であった。

モダリティ別にみるとX線検査は減少し、内視鏡検査が増加している。カバー率の微増は内視鏡検査の増加によるもので15年度以来その傾向は変わらない。

## 2. 胃直接施設検診の成績

### 1) 施設検診の年齢層別成績と発見胃がんの推移（表2、図1）

総受診者数は17,808例で60歳以上が88.2%である。これは前年と同じ傾向で、60歳未満例は職場健診でカバーされているためと考えられる。

X線直接検診受診者数は前年に比べ793例（4.3%）減少している。要内視鏡率は6.6%（1,183/17,808）。内視鏡受診率は83.1%

（983/1,183）であった。

発見胃がんは49例、0.28%、早期がん39例、早期がん率86.7%（39/45）であった。ポリープ180例、1.0%、消化性潰瘍152例、0.85%、その他、腺腫13例、粘膜下腫瘍31例、十二指腸ポリープ6例、胃がん以外の悪性腫瘍8例である。

### 2) 初回受診者数の推移（表3）

胃X線施設検診初回受診者数は前年度に比べ1,255例増加している。全受診者に対する比率は29.3%であった。今年度から、3年間受診歴のない症例を初回受診者として扱ったためと考えられる。

### 3) 初回・再診別成績（表4）

初回受診者の胃がん発見率が再診者に比べわずかに高い一方で、早期がん率は再診者群がわずかに高かった。

### 4) 受診形式と発見率（表5）

胃がん発見率は初回、2年連続群が0.3%台で他の群に比べ高かった。早期がん率は全体で86.7%と例年に比べ極めて高かった。群別では特徴的な差は認められなかった。

表1 新潟市の胃がん検診総受診者数とカバー率の推移

年 度	13	14	15	16	17	18	19	20
対 象 者	160,535	164,534	168,224	172,172	264,979	278,365	279,295	286,456
集 団 検 診	6,766	6,757	6,381	5,910	18,693	17,187	15,439	15,229
直接施設検診	20,679	21,671	20,058	19,011	19,916	19,335	18,601	17,808
内 視 鏡 検 診			8,117	11,679	17,647	23,882	28,757	32,883
合 計	27,445	28,428	34,556	36,600	56,256	60,404	62,797	65,920
カ バ ー 率	17.1%	17.3%	20.5%	21.3%	21.2%	21.7%	22.5%	23.0%



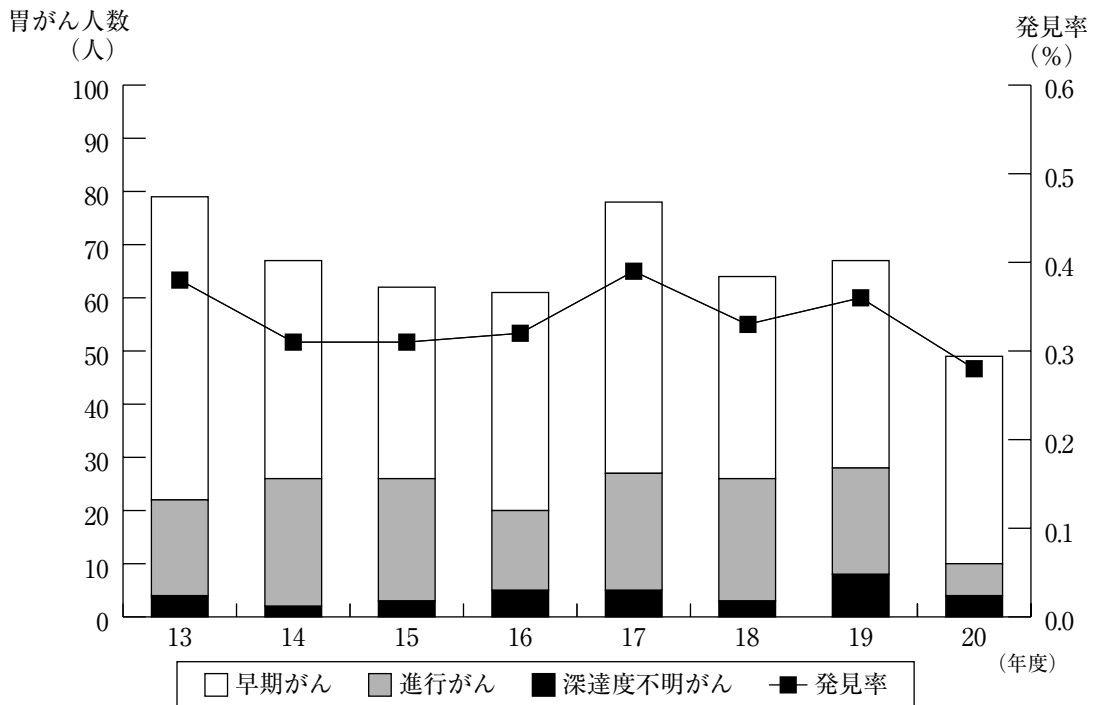


図1 胃施設検診発見胃がんの推移

表3 初回受診者数の推移

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
受診者数	20,679	21,671	20,058	19,011	19,916	19,335	18,601	17,808
初回受診者数	4,378 21.2%	4,335 20.0%	3,946 19.7%	3,380 17.8%	4,442 22.3%	4,091 21.2%	3,963 21.3%	5,218 29.3%

註：初回受診者数は、平成19年度まで過去5年、平成20年度から過去3年受診歴なし

表4 初回・再診別成績

	受診者数 (A)	要内視鏡 (B)	内視鏡受診者 (C)	発見胃がん			
				総数 (D)	進行	早期 (E)	深達度不明
初回	5,218	451 (B/A) 8.6%	375 (C/B) 83.1%	18 (D/A) 0.34%	2	13 (E/D) 72.2%	3
再診	12,590	732 (B/A) 5.8%	608 (C/B) 83.1%	31 (D/A) 0.25%	4	26 (E/D) 83.9%	1
合計	17,808	1,183 (B/A) 6.6%	983 (C/B) 83.1%	49 (D/A) 0.28%	6	39 (E/D) 79.6%	4

表5 受診形式と発見率

	なし(初回)		2年連続		3年連続		4年以上連続		隔年		不定期	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
進行がん	2				1		2	1				
早期がん	11	2	5	1	2		11	3	2		1	1
深達度不明がん	1	2					1					
がん/受診者数	14/2,363	4/2,855	5/787	1/942	3/673	0/971	14/2,593	4/3,895	2/510	0/922	1/469	1/828
発見率	0.59%	0.14%	0.64%	0.11%	0.45%	0.00%	0.54%	0.10%	0.39%	0.00%	0.21%	0.12%
がん/受診者数	18/5,218		6/1,729		3/1,644		18/6,488		2/1,432		2/1,297	
発見率	0.34%		0.35%		0.18%		0.28%		0.14%		0.15%	

表6 発見胃がんの最終検診歴と検診方法

	なし(初回)	1年前(19年度)			2年前(18年度)		3年前(17年度)	
		直接	内視鏡	間接	直接	内視鏡・間接	直接	内視鏡・間接
進行がん	2	4						
早期がん	13	19	2	1	2		2	
深達度不明がん	3	1						
計	18	27			2		2	

表7 偽陰性

	前年受診	前回検診の ダブルチェック状況		前年検診の結果			症例検討会	示 現		
		ダブル チェック	シングル チェック	異常なし	有所見精 検不要	要精検		+	-	±
進行がん	4	4		4			3	2	1	
早期がん	22	21	1	18	2	2	16	5	10	1
深達度不明がん	1	1		1						
計	27	26	1	23	2	2	19	7	11	1

のまとめ(図2)

偽陰性例のなかで retrospective に所見の認められなかった true negative 11例についてまとめた。前年検査時から手術までの期間は14ヶ月~24ヶ月で平均16ヶ月である。部位別に病型、大きさ、深達度、組織型を記入した。早期がん10例、内訳はⅡa型1例、Ⅱa+Ⅱc型2例、Ⅱc+Ⅱa型1例、Ⅱc型5例、Ⅰ+Ⅱa型1例。進行がんは2型の1例であった。

組織型では早期がんは分化度の高い tub1 が40.0% (4/10)、進行がんの1例は分化度の低い por であった。

8) 読影形式別成績(表8)

シングルチェック群1,522例、8.5%、要内

視鏡175例、11.5%、内視鏡受診163例、93.1%、ダブルチェック群16,286例、91.5%、要内視鏡1,008例、6.2%、内視鏡受診820例、81.3%であった。

発見胃がんはシングルチェック群1例、0.07%、早期がん率100%、対内視鏡受診者の発見率0.61%、ダブルチェック群48例、0.29%、早期がん率86.4% (38/44)、対内視鏡受診者の発見率5.85%であった。ダブルチェック群のなかにはシングルチェックで発見され至急病院に紹介した7例が含まれている。

前年に比べダブルチェック群が91.5%と増加傾向にある。要内視鏡率、内視鏡受診率はシングルチェック群がはるかに多く、これは





期がん率90% (9/10) であった。ポリープ147例、2.3%、消化性潰瘍58例、0.90%、その他、腺腫4例、粘膜下腫瘍23例、十二指腸ポリープ0例、胃がん以外の悪性腫瘍1例であった。

#### 4. まとめ

- 1) 胃がん検診のカバー率は23.0%で前年に比べ増加傾向がみられた。
- 2) 発見胃がんは施設検診49例、0.28%、早期がん率86.7%、集団検診10例、0.16%、早期がん率90%であった。
- 3) 今年度は早期がん率が86.7%と突出して高く、受診形式による差はなかった。
- 4) 施設検診発見胃がんのX線上の retrospec-

tive false negative 率（前年度病変を指摘できなかった症例で改めてX線フィルムを見直すと所見が認められた例）は36.8% (7/19) であった。

- 5) 前年度所見の認められなかった11例で発見時早期がん例は高分化型の tub1が多く、進行がん例は1例で低分化型の por であった。
- 6) 施設検診発見胃がんのうちダブルチェックで拾い上げられた症例が8例、19.5% (8/41) であった。このうちの早期がん率は89.2% (33/37) でダブルチェックの有用性を示唆するものと考えられる。
- 7) 今年度はダブルチェック率が91.5%とさらに増加した。